

報告書

原山小学校跡地活用協議会 第4回委員会

令和5年7月9日(日) 10:00~12:30

原山台集会所 会議室

出席者 役員6名、公募委員11名

※傍聴者6名

内容

あいさつ 宮丸会長

講師紹介 南山大/石川先生、愛工大/野澤先生

事務局説明 資料の説明

・前回までの振返り・・・2回のグループ討議の結果

【審議事項】○跡地活用の目指すべき方向性について

前回までのグループ討議で出された意見を事務局が整理し、5つのキーワードで分類しまとめの案として提示した。

▶①多世代交流の場 ②文化・スポーツ活動の場 ③異文化交流の場 ④施設の有効活用 ⑤避難所機能の維持
これをもとに参加者で審議したところ、市内他学区の跡地活用の事例を知りたいという質問が出たが、他に異論もなく事務局提案をまとめとすることが了承された。

《レクチャー》

続いて、2人の大学教授からそれぞれのテーマでパワーポイント(配布資料あり)を使っのレクチャーがあった。

■テーマ1「原小跡地活用とまちづくり」

講師 南山大学総合政策学部 教授 石川良文氏



石川先生は、菱野団地再生計画の策定委員であるとともに原山台の住民でもあり、両方の立場で本テーマについてわかりやすく丁寧に説明していただいた。以下は、発言の要旨。

・菱野団地は、黒川紀章による設計で ○良い環境 ○交通安全 ○便利な生活をコンセプトに開発された。当初の計画人口は30,000人だったが、1980年代の約22,000人を境に人口が減ってきた(現在は約10,000人)。

・そこで、市は2019年に菱野団地再生計画を策定し中長期の基本方針を定めると同時に先行プロジェクトを実施している。

- ・いくつかのデータから、菱野団地の人口減少の主な要因は県営住宅居住者の減少であることや原小から1km以内には公共施設やスーパー、医療施設などが比較的多く立地していることがわかる。
- ・これからの50年を見据えた原小跡地活用の方向性として、持続可能な団地として人口維持に寄与することや団地外の人にとっても魅力的であること、共生の理念(自然との共生、社会の共生)を継承することなどが求められるのではないか。

＜質疑応答＞

- ・原小跡地活用協議会の活動は有効か。→ 地域で小さなことから始め活動を広げていくとよい。
- ・県営住宅は建替えて居住者を増やせるか。→ 減築しても空室を満たしていくのがよい。
- ・若い人はあまり団地に魅力を感じないと思う。例えば、デザイン団地などの魅力が必要ではないか。

■テーマ2「廃校の発生状況と活用事例」

講師 愛知工業大学大学院工学研究科 教授 野澤英希氏

野澤先生は、石川先生とともに菱野団地再生計画の先行プロジェクトに関わっており、本協議会第3回委員会(6/11)に続いての参加となった。以下は、発言の要旨。

- ・平成期の30年間で、東海4県の小学校・中学校・高校の廃校は423校である。平成の市町村合併により小学校・中学校の統廃合は急速に進んだ。

- ・(私の)研究により、東海4県の約1/3の廃校の現地調査を行った(再利用・未利用施設を中心)。各県の年少・

老年人口割合での学校施設の再利用、取り壊しの状況や人口増加率、森林面積割合での施設再利用の種類(社会教育施設、宿泊・居住施設など)が変わってくる。

- ・現地調査記録から、学校施設の再利用事例として ①社会教育施設 ②温泉・産地直売所等 ③製塩工場 ④創業支援施設等を紹介する。

＜質疑応答＞

- ・原小の跡地活用は都市部の利用形態でよい。→ 地域での話し合い(活用方法・組織など)が必要。
- ・校舎建物は使えると思うがよいが内部はどうか。→ 施設活用の場合は給排水など設備の改修は必要。
- ・施設再利用の事例はうまくいっているのか。→ すべてはフォローできていないが、活用目的を明確にするべき。
- ・体育館や運動場は現在も住民に開放されている。これは続けてほしい。



【事務局からの連絡事項】

- ・第4回委員会の結果は「原小跡地活用ニュース」第5号にまとめ、全戸配布する。
- ・第5回委員会は、9月3日(日)10:00から開催する。内容は、原山小学校の現場見学とする。